

# 一人一人の学びや発達を促すキャリア教育 —初等教職課程カリキュラムにおける「進路指導」の内容の検討—

神 永 典 郎  
曾我部 和 広

## はじめに

本論文では、教職員免許法において、小学校教員免許状取得のための教職課程のカリキュラムにおいて設定されている「進路指導」の内容を含む科目に盛り込み習得すべき内容について、本学における設定科目「生徒指導・進路指導(小)」の学修内容を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すキャリア教育」の視点から検討することを目的としている。

また、2020年度より実施となる小学校学習指導要領において、学校の教育活動全体で取り組む「キャリア教育」で育成を目指す児童生徒の資質・能力としての「基礎的・汎用的能力」の位置付けを確認するとともに、一人一人の子どもの学びや発達の視座から、小学校・中学校・高等学校と学校段階を経ながら「キャリア発達」を遂げるその基盤としての小学校段階において、起業家教育における起業体験活動に先進的に取り組んで来た東京都の杉並区立天沼小学校の実践事例を取り上げて報告していく。

## I 教職課程カリキュラムにおける「進路指導」

### 1 進路指導とキャリア教育

「進路指導」は、中学校卒業後の就職率が高かった昭和40年代前半頃ま

では「職業指導」呼ばれ、学校教育終了時に職業選択を行うためのものであった。その後、高度経済成長期を経て高等学校への進学率が高まったことに伴い、進学か就職かの進路選択を伴うようになり。「進路指導」と呼ばれるようになった。しかし、「進路指導」は、学校卒業時の進路選択に関わる指導だけを行うものではなく、義務教育がその終了時に国民として身に付けるべき教育の完成を目指していた時代から生涯学習社会への移行が目指される中、一人一人の個人にとっての「生き方教育としての進路指導」が求められるようになってきた。

審議会報告等で「キャリア教育」という言葉がはじめて登場したのは、1999（平成11）年12月に出された中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」においてである。この答申では、学校教育とその後の職業生活との接続を課題として、若年者の雇用や就労を巡る課題（いわゆる「ニート問題」）の解消を目指したキャリア教育の推進が唱えられ、「キャリア教育」を「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・胎動を育てる教育」とした。

その後、2004（平成16）年にとりまとめられた「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～」においては、「進路指導は、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けることができるよう、指導・援助することである」として、定義・概念としては、「キャリア教育」とほぼ同様のものとされ、「進路指導」の取組は「キャリア教育」の中核をなすものと位置付けられている。

このような経過から「進路指導」と「キャリア教育」との間には概念的に大きな差異はなく、2011（平成23）年の中央教育審議会答申「今後の学

校教育委におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」においても、「進路指導のねらいは、キャリア教育の目指すところとほぼ同じ」という記述がなされてきている。

## 2 本学の初等教職課程カリキュラムにおける「進路指導」の内容の検討

このよう経緯から、本学における設定科目「生徒指導・進路指導（小）」における「進路指導」の学修内容は、前述の2011年の中教審答申の「キャリア教育」の視点に立ち、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」との視点からその内容を構成している。その主な内容を示すと以下の通りである。

特に、説明を加えると、①の「進路指導」の基本的視座と教師の役割では、4つの視座として、

- (1) 進路を考えることは、児童生徒一人一人の主体的行為であること  
…自分の生き方は自分が考える（自己選択・自己決定・自己責任）
- (2) 進路を考える上で自分自身の姿を明らかにし、これを受け入れること  
…自己理解を深める（自分の興味・関心、価値観、性格、適性、能力）
- (3) 自分が将来を生きる場としての進路の世界を理解すること  
…社会生活、職業生活について理解する（仕事をする事職業についての知識・理解）
- (4) 児童生徒は、将来の人生において社会的・職業的活動を通して自己実現をめざす  
…自分自身の価値観や生き方の具体化を図る（職業生活における蓄積が「キャリア」となっていく）を押さえるようにしている。

また、「進路指導における教師の役割」としては、児童生徒が自分らしく固有の価値を表現しながら生きていくために、どのように「自らのこと」・

「進路のこと」・「自己実現と職業との関係」について考えるべきか等について 自己決定していけるように援助していく教師の姿勢について伝えて行くようにしている。

＜「生徒指導・進路指導（小）」における進路指導の学修内容＞

- ①キャリア発達と各学校段階で行う進路指導（キャリア教育）
  - ・「進路指導（＝キャリア教育）」と生徒指導
    - ※生徒指導、進路指導、キャリア教育の目標と意義の確認
  - ・「進路指導（＝キャリア教育）」の基本的視座と教師の役割
    - \* 「進路指導」の4つの視座
    - \* 「進路指導」における教師の役割
- ②「進路指導」の全体計画と教育課程への位置付け
  - ・各学校段階（発達段階）における「キャリア教育の目標」
    - \* 小学校段階で行う進路指導（キャリア教育）
  - ・小学校の学年段階を踏まえた「キャリア教育の発達課題」
  - ・社会的自立・職業的自立に向けて行うキャリア教育
  - ・「進路指導（キャリア教育）」の教育課程への位置付け
- ③キャリア教育の視点を取り入れた小学校の取り組み
  - \* 勤労観、職業観を育成する
  - ・将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる事例
  - ・職場体験の活動を取り入れた事例（総合的な学習の時間）
  - ・社会科の発展学習にキャリア教育の視点を取り入れた事例
    - ※志を持って働く人に出会い、話を聞く場の設定
  - ・起業家体験の活動を取り入れた事例
    - ※杉並区立天沼小学校（後述）
- ④児童期の心理と発達
  - \* 「発達段階」と「発達理論」理解（キャリア発達を含む）
  - \* キャリア発達に関わる諸能力（4つの視点）

②の「進路指導」の全体計画と教育課程への位置付けにおいては、小・中・高における発達段階に応じてキャリア発達を促す学びとなるように「キャリア発達段階」の表（次頁図）を用いて学校段階を追って連続した学びを構想することができるよう教育課程の縦の流れが意識できるようにしている。

小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達

	小学校	中学校	高等学校
	〈キャリア発達段階〉		
就 学 前	進路の探索・選択にかか る基盤形成の時期	現実的探索と 暫定的選択の時期	現実的探索・試行と 社会的移行準備の時期
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己及び他者への積極的関心の形成・発展</li> <li>身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上</li> <li>夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得</li> <li>勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的自己理解と自己有用感の獲得</li> <li>興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成</li> <li>進路計画の立案と暫定的選択</li> <li>生き方や進路に関する現実的探索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解の深化と自己受容</li> <li>選択基準としての勤労観・職業観の確立</li> <li>将来設計の立案と社会的移行の準備</li> <li>進路の現実吟味と試行的参加</li> </ul>

大学・専門学校・社会人

さらに、小学校における6年の発達段階を踏まえて、低学年・中学年・高学年の各学年ブロックの段階における「キャリア発達課題」を示した下図を示し、それぞれの学年段階の指導目標の設定において考慮することを押さえることができるようにしている。

小学校におけるキャリア発達課題

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>①小学校生活に適應する。</li> <li>②身の回りの事象への関心を高める。</li> <li>③自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①友だちと協力して活動する中でかかわりを深める。</li> <li>②自分の持ち味を發揮し、役割を自覚する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。</li> <li>②集団の中で自己を生かす。</li> </ul>

これらの資料は、文部科学省が2006（平成12）年に発行し、小学校版は2011（平成23）年5月改定版を發刊した「（小学校・中学校・高等学校）キャ

リア教育推進の手引き」を参考資料としている。

そして、「進路指導（キャリア教育）」の教育課程への位置付けにおいては、キャリア教育の目標に基づき「社会的自立・職業的自立に向けて行うキャリア教育」として、

- (1) 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育成すること
- (2) 一人一人の発達に応じた指導を行うこと
- (3) 小・中・高を通じた学校段階を越えて組織的・系統的な取り組みを行うこと

※一人一人のキャリア形成と自己実現につなげるための「キャリア・パスポート」への取組みについて

- (4) 職場体験・インターシップ等の充実を図ること

※将来就きたい仕事を選択しての職場体験でなく、「働くこと意義」をつかむ「勤労観や職業観」を学ぶことを大切にすることについて押さえるように四エチル。

③の「キャリア教育の視点を取り入れた小学校の取り組み」では、これまでの理論的な説明を実際の学校現場ではどのように具現化して実践しているかを資料と映像によって紹介している。特に、後半の「Ⅱ」で詳述する東京都杉並区立天沼小学校の事例では、同校の「起業家教育」の取組を紹介した番組の映像とともに、どのような活動が起業体験の活動になるのかについて、具体的に紹介するようにしている。

## Ⅱ 学校現場での取り組み事例

### ～杉並区立天沼小学校の取組事例から～

東京都の杉並区立天沼小学校では、2008年の開校以来、学校支援本部、学校運営協議会の協力を得ながら、特色ある教育活動として1年生から6年生まで学齢に応じた体系的なキャリア教育に取り組んでいる。2014年に

は文部科学大臣表彰も受けており、先進的な取り組みをしている学校の事例として紹介する。

### (1) 授業についての考え方

- ① 1年生から6年生まで、学年に応じたキャリア教育プログラムを実施する。
- ② 日々の教育活動においてもキャリア教育の観点を取り入れた授業を進める。

この考え方にに基づき、「係活動で役割を果たすこと」「課題に対してグループワークをして協調すること」「発表活動を通して考えをまとめ、コミュニケーション力をつけること」の3つねらいを掲げて、学校の教育活動全体においてキャリア教育の視点を生かした実践プログラムが構成されている。

### (2) 天沼小学校のキャリア教育プログラム

#### <杉並区立天沼小学校のキャリア教育の教育計画>

- \* 1・2年生合同 (特別活動の中での展開)
  - 学校行事「天沼まつり」でお店を出す活動
- \* 3年生
  - 商店街で「お店番体験」(社会科との関連)
- \* 4学年
  - 「ユニバーサルデザインの学習」  
(総合的な学習の時間)
  - 「二分の一成人式」(特別活動の中での展開)
- \* 5年生
  - 「あまぬま会社経営プロジェクトAKP」  
※起業体験の活動(総合的な学習の時間)
- \* 6年生
  - 「裁判」の傍聴(社会科)
  - 地域の方々との交流活動「おもてなし体験」  
(総合的な学習の時間)
- \* 「こだま」(特別支援学級)
  - 「フェスタこだま」※遊びのお店体験

① 1、2年生合同の取組

○「学校たんけん」

「紙すき」

2年生が1年生に「教える」活動。「学校たんけん」では、2年生が校内各所を1年生に優しく案内する。「紙すき」では、2年生は、1年生のときにしてもらったことを思い出し、やさしくエスコートしていく。

② 1年生の取り組み

○「天沼まつり」

全学級が計画を立てて教室にお店を出します。児童の半分がお店番、半分がお客さんになり交代で両方を体験する。1年生もしっかりとお客様を迎え対応していく。

③ 2年生の取り組み

○「町たんけん」

生まれ育っている天沼には、どのような歴史があり、施設があるのか、町を歩いて学習して行きます。また、天沼をよく知る地域の人から話を聞くことで町への愛情を育てていく。

④ 3年生の取り組み

○「コンビニ・スーパーインタビュー」

地域にあるコンビニエンスストアやスーパーマーケット等を訪ね、お店の仕事や工夫についてインタビューをする。また、自分の生活と商店や商品のつながりを意識して調べていく。

○「マナー講座」

お店番体験に備え、天沼中2年生を先生に迎えてマナー講座を行う。天沼中の生徒も職場体験をしてきた経験踏まえて、お店でお客さんに接するときには気をつけることについて教えていく。



○「お店番体験」

教会通り商店会の協力でお店番体験を行う。その際、事前に自分の担当するお店を訪問し、お店の商品や心構えについて学び、本番の日は、「いらっしやいませ」「ありがとうございます」という明るい声を商店街に響き渡らせている。

⑤ 4年生の取り組み

○「地域安全マップ」

「安心安全」の視点をもって校区内をめぐる。「入りやすく見えにくい」場所は、犯罪が起きやすい場所という事前学習を受け、フィールドワーク、マップづくり、発表という手順で学習を進めていく。

○「障がいについて知る」・「こだま学級との交流」・「ユニバーサルデザイン学習」

障がいのある人々の生活や工夫について、交流や体験を通して学ぶ。障がいにはいろいろな種類があること、障がい者は特別な存在の人ではなく個性であること、みなが平等に共生していける社会が大切であることを知り、インクルーシブな社会のあり方を考えるために、視覚障がいの方との交流学習や企業のユニバーサルデザイン体験学習を実施している。

○「2分の1成人式」「成人式を迎えた先輩との語らい」

20才の半分2分の1成人式では、生まれてから今までの自分を振り返りかえり、育ててくれたさまざまな人たちへの感謝の心を味わいます。また、20才の先輩から話を聞き、20才になったときの自分を想像する。

⑥ 5年生の取り組み

○「あまぬま会社経営プロジェクトAKP」

5年生では、一年間をかけ会社経営プロジェクトを通してキャリア教育プロジェクトにチャレンジしていく。

- 「市場調査」では、作品と商品の違い、「買ってもらうためには」について、「お客さんに喜んでいただく商品を売らなくては…」等の視点から考えていく。
- 「品評会」では、市場調査をしてニーズをさぐり、試作品を企画し、品評会でプレゼンテーションして商品をアピールしていく。企画が認められた商品を製造販売するために、会社を設立。出資金を集め、社長・製造部・宣伝部などの組織をつくって起業することを体験的に学んでいく。
- 「研修センター」は、企業の研修センターに出向き、商品陳列のコツや接客マナーを体験し、お客様を第一に考えることを学んでいく。
- 「販売」では、売れるかなと緊張し、完売後も会社経営のむずかしさを知るとともに、一年間やりきった達成感を味わっていく。

#### ⑦6年生の取り組み

##### ○「私たちの天沼」

地域の方々にお世話になり小学校生活を送ってきた6年生が、お礼の気持ちを込めて交流学習を行い、地域の方々への思いやりあるおもてなしを考えていく。

##### ○「裁判」の傍聴

法治国家の一員として法律を守って生きることの大切さを学ぶ。事前学習では裁判制度の学習をしたうえで裁判を傍聴し、法廷の張りつめた空気を感じ、社会の一員として厳粛な気持ち感じていく。

#### ⑧こだま（特別支援学級）の取り組み

##### ○「エコキャップ集め」

こだま学級の子どもたちは天沼小学校でのキャップ集めリーダーとして活躍している。また、集めたキャップを天沼中に運び、合わせてリサイクルに回している。自分の仕事に責任をもって取り組み、校内の友だちや地域の人たちとの交流につながっていく活動をしている。

○「フェスタこだま」

こだま学級の児童全員で力を合わせ、楽しいお祭りを計画している。さかなつりやボウリングのゲームを行う等、4年生を学級ごとに招待して交流している。また、交流する4年生は、こだま学級の担任から子どもたちの障がいについて説明を受け、障がい者についての理解を深めていく。

(3) 天沼小学校のキャリア教育

義務教育9年間のキャリア教育で育てたい「力」は発達段階（低・中・高学年、中学生）に応じて形成されていくとの考えのもと、全学年のプログラムを学校支援本部の多大なるバックアップを受けながら、また各教科・領域の学校授業においもキャリア教育の方針に基づいた実践を進めている。

①人間関係形成・社会形成能力

他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながらコミュニケーションを図り、協力・共同していける力。

②自己理解・自己管理能力

肯定的理解をもとに主体的に行動できる力。

今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

③課題対応能力

課題を発見・分析し、適切な計画を立てて解決に向かっていける力。

#### ④キャリアプランニング能力

果たすべき役割や立場の関連を踏まえて、主体的に判断できる力。

### (4) 近隣幼稚園・保育園・天沼中と連携したキャリア教育

#### ①天沼中学校

天沼中学校では「職場体験学習」「ビジネスマナー教室」「職場訪問」「職業人の話を聞く」等の活動を行っている。また、天沼小の3年生へのマナー講座に中学2年生が、4年生への華道学習を中学華道部の生徒が小学校に赴き指導を行っている。その結果、中学生は模範になる姿を見せようと頑張り、「教える」ことの体験を通して自らの経験を生かすことができ、また、役に立っているという自己有用感をつかんでいく。

#### ②天沼小学校

天沼中と連携してキャリア教育を進めており、上述のように3年生のお店番体験の前のマナー教室や、4年生の華道学習に中学生が来校し、先生役となって活動している。また、幼稚園や保育所との交流では、3年生が幼児への読み聞かせを行う活動を行い、幼児に分かりやすく話すためにはと相手意識をもち、他者に対する思いやりの心が育つように活動するとともに、自分の力を高めようとする意欲を育てている。

#### ③近隣幼稚園・保育園

「幼・保・小連携キャリア教育」「わくわく図書館プロジェクト」などの活動を通して、幼稚園・保育園児が小学校を訪問する機会を設け、いわゆる小学校生活へのアプローチカリキュラムを実践している。それらの活動を通して、小学校入学を控えた年長の園児たちは、小学校という場に親しみ、身近に感じるできるようになるとともに、小学校生活への不安を減らし、期待につなげてくことができるようにしている。

## (5) 家庭でできるキャリア教育

天沼小学校では、保護者に向けて「キャリア教育」で育成を目指す「基礎的・汎用的能力」の4つ視点からの呼びかけを「家庭でできるキャリア教育」として作成し、啓発活動に取り組んでいる。

保護者や地域に対して、このような形で学校の教育活動全体を通してのキャリア教育への取組を伝えることは、学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて取り組む学校の姿勢や教育方針に賛同し協力が得られるようにしていくことの具体の姿であり。今後、このような取り組みがますます求められていくことになると言えよう。

### <家庭でできる「キャリア教育」>

- ①自己管理能力
  - 早寝、早起き、朝ごはん  
決まった時刻に寝起きして、朝ごはんをきちんと食べましょう。
  - 明日の準備  
明日の準備は前日に。
  - おかたづけ  
自分が使ったものは、自分でかたづけられるようにしましょう。
- ②コミュニケーション能力
  - きちんとあいさつ  
あいさつがきちんとできるようにしましょう。
  - 家族の会話  
家族での会話を大切に楽しみましょう。
- ③キャリアプランニング能力
  - おてつだい  
おてつだいを頼み、役割を与えましょう。
  - やる気を育てる  
はげましの言葉をかけ、認めてあげましょう。
- ④課題対応能力
  - 時間を守る、約束を守る  
家庭のルールや社会のルールを守らせましょう。
  - 本気で叱り、本気でほめる  
いけないことはきちんと叱り、論じましょう。

## おわりに

本論文では、まず「進路指導」と「キャリア教育」の定義について確認し、本学の初等教職課程カリキュラムにおける設定科目「生徒指導・進路指導（小）」における「進路指導」の学修内容を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すキャリア教育」の視点から検討してきた。その中で「進路指導」の内容を含む科目に盛り込む内容については一応の整理をつけることができたが、そのための学修活動や時間の確保には、課題も残されている。

特に、キャリア発達の形成については、一般的な発達理論の発達段階を理解することと、実際のキャリア発達の段階とを関連付ける内容や事例の関連については、新しい事例による内容の刷新や、理論的な関連研究の提示等、背景となる研究の把握も含めて改善を図って行く必要がある。今後の課題としていきたい。

付記：本稿は、Ⅰの本学の科目における取組を神永が、Ⅱの小学校における実践事例について曾我部が分担して執筆し、相互に協議して全体をまとめたものである。

## 参考文献

- ・中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」（1999）
- ・文部科学省キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～」（2004）
- ・文部科学省『生徒指導提要』（2010）教育図書
- ・中央教育審議会「今後の学校教育委におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（2011）

- 文部科学省「小学校キャリア教育推進の手引き<改訂版>」(2011) 教育出版
- 文部科学省「初等教育資料」No.977 (2019) 2月号 東洋館出版社
- 杉並区立天沼小学校「特色ある教育活動 キャリア教育」  
(参考) NHK-ETV「ウワサの保護者会」
- 文部科学省「キャリア・パスポート」例示資料等について  
Webサイト[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/detail/1419917.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1419917.htm)
- 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」パンフレット－個々のキャリア発達を踏まえた“教師”の働きかけ－「語る」「語らせる」「語り合わせる」で変える！キャリア教育2016年3月  
Webサイト[http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career\\_jittaityousa/career-report\\_pamphlet3.htm](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report_pamphlet3.htm)

